

食と農と村を考える情報誌

FURUSATO YUME TOYAMA

ふるさと

夢とやま

NO.38

ふるさとウォッチング／南砺市大動場千束，朝日町大家庄地区
共に考え、実践する。利賀で見つけた新たな魅力／農業の営みで育まれる風景に会いに

とやま農山漁村インターンシップ／大長谷，山田，栗原，蛭谷
富山県の農山漁村で地方について考えてみませんか？

中山間地域チャレンジ支援事業／富山市小羽地区
閉校になった小学校木造校舎から発信する里山の魅力

魅力たっぷり！とやまの6次産業化／Jun Blend kitchen，メルベン工房
地域に愛される農家カフェ／バラが舞う、優雅なバスタイム

カモ親子の農村日記／高岡市下八ヶ佐加野用水
万葉のゆたかな水の里

トピックス
若い力で元気なむらづくり／イノシシ被害防止に向けて
とやま帰農塾2017／第6回「とやまの農山村写真展」

ふるさとウォッチング



大自然の中で釣り体験

南砺市利賀村大勘場千束地区



▲きな粉のおはぎ



▲郷土料理

一緒に地元野菜を調理

利賀村では多くの住民の方が自宅の畑で新鮮な野菜を育てています。この塾では学生と地元住民の方々が、収穫した野菜をどのように料理にしようか一緒に考えます。学生達の斬新なアイデアに地元住民の方々は驚きながらも楽しんでます。今年度は「ピーツ」の栽培にも取り組んでおり、試行錯誤しながらカレーライスやパンケーキなどの料理方法を編み出しました。

地元住民との交流

5月の終わり頃から、休耕田を活用した農業活動を行います。これまでに古代米、大豆、赤かぶの栽培に取り組んできました。修学旅行で訪れた都市部の中学生達に楽しみながら草刈り作業を体験してもらっています。地元住民の作業の軽減にもつながっています。



草刈りの時に見つけたミミズで釣りをしました

共に考え、実践する。利賀で見つけた新たな魅力

南砺市利賀村大勘場千束地区は岐阜県境に近い、周囲を1,000m級の山々に囲まれた冷涼多雪な地域です。過疎化や高齢化が進み、田んぼや畑も次第に休耕田になってしまいました。そこで千束地区では「利賀村農業体験塾」を結成し、「棚田保全活動支援事業」を活用して地域の活性化に向けた活動に取り組まれています。農村体験活動・山菜採りツアー・キノコ栽培体験を通して都市部の人々と交流することで、だんだんと地区に活気がよみがえってきています。

農村ならではの体験

毎年5月に行っている「山菜採りツアー」は大学の課外プログラムで利賀村に訪れた大学生達に好評です。学生達と一緒に採った山菜は調理して郷土料理として振る舞います。その他に地元野菜である、トマト、なす、みょうが、きゅうり、かぼちゃなども加わります。また、料理だけでなく、ピザを作る時に、ピザ釜用の薪を自分たちで薪割りするなど農村ならではの体験が満載です。



ピザを焼くにも薪割りから



できあがったピザ!



割った薪はピザ釜へ



▲山菜採り



利賀村全体でセカンドスクールを受け入れます!

・セカンドスクールとは

農山漁村に長期宿泊し、普段の学校生活ではできないような体験を授業の一部として行うこと。

・棚田保全活動支援事業とは

集落組織等において、活動参加者等による棚田保全活動協定書等を締結し、棚田オーナー、都市住民ボランティア体験、子供農村体験、市民農園・体験農園、耕作放棄地活用等の活動を実施する組織に対して、県が支援するもの。

これからも活動を続けていくために
今まで、様々な事業を通してたくさんの若者と交流してきました。交流した大学生が就職後、ふらっと村を訪れることもありました。利賀村には一度訪れた人を「またここに来たい!」と思わせる魅力があります。利賀村農業体験塾では、これからも訪れた人々と共に自然の中で、みずから考え、実践し、新たな利賀の魅力を見つけていきます。

ふるさとウォッチング

農業の営みで育まれる風景に会いに

朝日町の農村地帯の大家庄地区。富山の春を代表する風景、あさひ舟川「春の四重奏」と、農家とお寺が連携したグリーン・ツーリズムの取り組みをご紹介します。

大家庄地区の素晴らしき先覚者

町道沿いに整然と住宅が並び、その周辺に農地が広がる大家庄地区の舟川新。時代の先を見据え約10年前に舟川新耕地整理事業が、藤井十三郎(当時23歳)と山崎次郎(当時24歳)の二人の若者の指揮で行われました。10年をかけた73haの耕地整理と散在していた70軒余りの宅地整理、共同浴場や消防用設備の整備、肥料の製造販売を行う合資会社の設立等の農村総合整備が、全国に先駆け進められました。十二郎氏は、惜し気もなく私財を投げ打ち、屋敷林を住宅の建材や事業の費用にあてました。素晴らしき先覚者の志を受け継ぎ、次なる時代に向けて、現在、ほ場整備が行われています。

奇跡の風景を 守り育むお手伝い

チューリップの花をそのまま咲かせておくと、種が出来て球根の養分が取られてしまいます。そこで、球根を大きく育てるために花を摘み取ります。機械化されているとはいえ、刈り残しや茎の短い品種では、人の手が必要になります。手間のかかる作業を少しでもお手伝いできたらと、昨年の春に、あさひふるさと体験推進協議会が、「チューリップの花摘み隊」を募集しました。

呼びかけに応じて県内外から親子連れなど若い方々が参加し、お花見に

春の四重奏



古代米で描く 田んぼアート



おおいえのしょう 朝日町大家庄地区



麦秋の黄金の波

春夏秋冬会いに来て!

J Aみな穂青壮年部主催の「田んぼアート田植え」が、毎年5月下旬に開催され、年々参加者が増えています。田んぼのキャンバスに数種類の古代米を手植えて絵を描き、稲の成長とともに表情の変化を楽しめます。収穫したお米は、「田んぼアート米」として販売され、おいしくいただくことができます。平成28年7月には、舟川の



チューリップの花摘み隊

来た幼児や観光客も手伝って下さいました。前屈みで広い畑を歩きながら花を摘み取る重労働を体験し、少しでも農家の苦労が分かると、春の四重奏の風景がより輝いて見えます。絶景を前に(蛙(あせ)に腰掛けおしゃべりしながら)いたたくお茶もまた贅沢で、貴重な体験が出来たと参加者は喜んでおられました。

摘み取られた花びらは、桜の根元に撒かれて肥料となり桜の幹を大きく育てます。舟川べりの見事な桜トンネルとチューリップが、美しい循環でつながっています。



農業が営まれ守り育まれる風景

農家とお寺でグリーン・ツーリズム

大家庄地区には、縄文時代の大型住居跡が発見された不動堂遺跡があり、周辺には湧水が見られる昔から恵まれた農村地帯です。そこに位置する(有)クリーンみず穂さんが、地元の天香寺さんと連携し、「農」と「食」を身近に感じられる体験メニューを揃え、県外の中学生の自然教室やとやま帰農塾「大家塾」などの農業体験・農村の暮らし体験交流の受け入れに取り組んでいます。

天香寺での座禅体験と合わせて、料理上手な農家のお母さん方に教わる郷土食づくりが人気で、サバの押し寿司や自家製大豆の味噌づくりなどを体験することが出来ます。

町内外の方とのあたたかな交流が地域の活性化につながり、ふるさとの魅力を再発見し、地域住民の誇りを育むことにつながっています。これからも、楽しみながら体験交流活動を続けていきます。



味噌づくり体験



天香寺での座禅体験



▲稲刈り作業

03 あわら 氷見市栗原地区

【日程】平成28年 8/22(月)~28(日)

【参加者数】10名 (男6名/女4名)

▼地域資源
マップづくり



▲竹細工づくり



氷見市の中ほどにある栗原地区は、次第に高齢化が進行するなか、地域の特産であるタケノコを活かした「桜まつり」を開催するなど、地域活性化に向けた機運が高まっています。そこで、『都市農村交流に向けた環境づくりの提案及び利用可能な地域資源の再発見』をテーマとし、活動に取り組みました。

成果発表では、地域資源をまとめた地図の作成・竹灯籠祭りや竹細工講習会の開催など竹を活用した地域交流の提案がありました。

地域の方からは、これらの提案を活かして自分たちですぐに取り掛かれるものから実行していきたいとの意気込みも聞かれ、学生からもまた栗原を訪れたいとの声が多く聞かれました。



▲地域見学



▲農作業体験

04 びるだに 朝日町蛭谷地区

【日程】平成28年 8/3(水)~9(火)

【参加者数】14名 (男8名/女6名)



▲和紙づくり体験

昨年度に引き続き、二年目の開催となる蛭谷地区。今年度は地域の現状や昨年度の成果を踏まえ『空き家及び耕作放棄地等を活用した都市農村交流の仕組みづくりの検討』をテーマとしました。

成果発表では、空き家を利用した和紙づくり体験や墨絵の展示会を開催することで空き家の老朽化を防止するなどの提案がありました。

今回のインターンシップでは朝日町へ移住したいと宣言する学生が現れるなど、課題解決提案以外の成果も見受けられました。今後はこのインターンシップの成果をいかに活かして地域を盛り上げていくかが課題となります。



▲バタバタ茶 伝承館での交流



▲住民聞き取り調査



▲空き家見学

課題

各地域において実施期間中は若者の笑顔と活気に包まれ、それはまるで「別世界」と表現する方もおられるこのインターンシップ。しかし、これを一過性のイベントに終わらせず、若者からの提案内容や若者とのネットワークなどインターンシップで得られた財産を各地域で活かし、地域活性化の次のステップに繋げていくことが重要になってきます。

※「とやま農山漁村インターンシップ」とは・・・

都市部の学生等を一定期間地域に受け入れ、農林業体験や地域づくり活動、住民への聞き取りなどを通して、地域の現状を知り、地域の課題に対して若者目線の解決策を提案してもらうもの。

▼白木峰登山



▲農園体験



岐阜県境に位置し富山市中心地から車で一時間以上かかる八尾町大長谷地区は、点在する地域資源を活用し、年間を通じた交流人口を確保していきたいとの地域の思いから、「定常的な交流人口の確保に向けた地域資源の整理及びグリーン・ツーリズムへの活用」をテーマとしました。

成果発表では、人を呼び込むための地域マップ作成や白木峰をベースとした交流プランなどのアイデアが出されました。

今後は、交流人口の確保に向けて今回のインターンシップでの提案をきっかけとして、まずは地域自ら考え、実現可能なことから取り組むことで地域活性化につながることを期待されます。



▲ブルーベリー園見学



▲炭焼き小屋見学

02 富山市山田地区

【日程】平成28年 8/19(金)~25(木)

【参加者数】12名 (男5名/女7名)

富山市の中心部から比較的アクセスのよい山田地区。農産物直売所の運営やイベントの実施など地域活性化に向けた活動を積極的に行っていますが、地域の若者の流出に歯止めがききません。そこで、移住者増加を目指し、『都市住民からみた地域や農山村生活の魅力発見』をテーマとしました。

成果発表では、エゴマや啓翁枝などの農産物や北陸最古の温泉などの資源を活用した体験学習の開催やSNSを活用した情報発信による地域のPRなどの提案がありました。

地域の方との活発な意見交換もあり、今後の山田をどのように活性化するか、多くの住民の方々が考えるきっかけになりました。

▲山田



▲農業体験



▲住民聞き取り調査



▲住民聞き取り調査



昨年度から始まった地域滞在型のインターンシップ事業「とやま農山漁村インターンシップ※」が、本年度、県内4地域で開催されました。地域における学生たちの活躍をご紹介します。

とやま農山漁村インターンシップ

富山県の農山漁村で地方について考えてみませんか？

01 富山市八尾町 おおながに 大長谷地区

【日程】平成28年 8/2(火)~8(月)

【参加者数】7名 (男5名/女2名)

▲大長谷

岐阜県境に位置し富山市中心地から車で一時間以上かかる八尾町大長谷地区は、点在する地域資源を活用し、年間を通じた交流人口を確保していきたいとの地域の思いから、「定常的な交流人口の確保に向けた地域資源の整理及びグリーン・ツーリズムへの活用」をテーマとしました。

成果発表では、人を呼び込むための地域マップ作成や白木峰をベースとした交流プランなどのアイデアが出されました。

今後は、交流人口の確保に向けて今回のインターンシップでの提案をきっかけとして、まずは地域自ら考え、実現可能なことから取り組むことで地域活性化につながることを期待されます。



▼ツリーデッキ



▲ツリーデッキ・アスレチック

里山は自然のおもちゃ箱

小羽地区もまた少子高齢化、人口減少の波にさらされています。「NPO法人こば」では、小羽地区の現状を変えようと、そば打ち教室や自然体験、農業体験、森の整備活動やツリーデッキ建設、アスレチック設置などを企画し、訪れた親子連れはとも楽しんでおられました。

これによって、小羽地区外の人々との交流人口は大幅に増え、移住する人たちも少しずつ増えています。今後は空き家バンクなどにも取り組んでいく予定です。

でも一番大切なことは、この地域で実際に暮らしている方々が、どれ

だけ自分たちの里山の自然を愛し、生き生きと暮らしていくかということと、「NPO法人こば」は自分たち自身が楽しむことを活動の第一の目的にしています。

里山は、その気になればお金をほとんどかけずに日々の暮らしを楽しめる自然のおもちゃ箱です。

一緒にチャレンジしませんか？

小羽地区は、平成28年に活動を修了した「草刈り十字軍」の発祥の地でもあります。NPOの中心的メンバーには、この活動に参加したこときっかけにこの地に移住し、有機農業を営む人たちがいます。

都市住民や他地域の人々に対して、昔から開かれた地域であること

も、小羽の魅力の一つです。旧小羽小学校の空き教室では、そば打ち教室、里山カフェ、合気道教室、そしてライブハウス構想など、自発的なプロジェクトがどんどん生まれています。

「NPO法人こば」では、里山暮らしを楽しみ、チャレンジする仲間を求めています。興味のある方はお気軽にお問合せください。



そば打ち教室

富山市南部の神通川左岸、少し車を走らせると小羽地区に着きます。かつて富山湾のブリを内陸へと運んだブリ街道（現在の国道41号）に近く、棚田から立山連峰を一望し、四季折々の神通峡の美しさを気軽に楽しめる中山間地域です。「NPO法人こば」は中山間地域チャレンジ支援事業を活用して、閉校になった旧小羽小学校を拠点に、里山で生きる楽しさ、素晴らしさを発信し、地域活性化を目指しています。合言葉は、「田舎だからこそチャレンジできる！」

嬉し楽しや里山暮らし

小羽地区は市街地から離れておらず、神通川に橋が少なかった昔とは違い、生活上の不便さはほとんどありません。一方で、棚田をはじめ豊かな里山の風景が広がっています。

雪解けの春には一斉に命が芽吹き、様々な山菜を楽しめます。眩いばかりの新緑の季節を経て、真夏の暑さは里山林が防いでくれます。目の前に広がる緑の稲の上を流れる風

も心地よく、夜には蛍が舞う様子を見ることが出来ます。

収穫の秋には、山水で育った美しい黄金色の稲穂が実ります。澄み切った夜空に上る満月と、月明かりに浮かび上がる立山連峰。冬の里山は真っ白に雪化粧します。雪の上に残る、カモシカやウサギ、キツネの足跡。

小羽地区には、昔ながらの日本の田舎の原風景が残っているのです。



▲棚田からの立山連峰

小さなつながりから夢のある未来を！
**閉校になった小学校木造校舎から
発信する里山の魅力**

富山市南部の神通川左岸、少し車を走らせると小羽地区に着きます。かつて富山湾のブリを内陸へと運んだブリ街道（現在の国道41号）に近く、棚田から立山連峰を一望し、四季折々の神通峡の美しさを気軽に楽しめる中山間地域です。「NPO法人こば」は中山間地域チャレンジ支援事業を活用して、閉校になった旧小羽小学校を拠点に、里山で生きる楽しさ、素晴らしさを発信し、地域活性化を目指しています。合言葉は、「田舎だからこそチャレンジできる！」



富山市小羽地区



▶中山間地域チャレンジ支援事業とは…

中山間地域の集落と企業・団体等が連携して取り組む農山村を元気にする活動（農業生産活動の支援、新商品開発など）に対して、県が支援する事業です。

▶草刈り十字軍とは…

造林地への農業の空中散布に反対したことがきっかけで起こった運動。人力による山林の草刈りを実施してきた。

お問い合わせ
NPO法人こば 事務局
TEL:090-5133-4236

楽しいイベント盛りだくさん！



里山山道ウォーク

岩魚つかみ大会

里山カフェ

木工教室

農業体験田植え

北陸新幹線開業記念スノーフェスティバル

穂先たけのこ採り



県内の女性農業者が営む注目の「農家カフェ」と女性ならではのユニークな6次産業化の取組を紹介します。

- 1 深紅のバラだけでなく、ピンク、ミックスもあり、豊かな香りと優雅なバラの美しさは心もカラダも癒してくれます。
- 2 10輪の卵パック入り1,080円税込 県内最大の鶏卵の産地である小矢部市ならではの商品です。
- 3 4棟のハウスで多彩な色のバラを水耕栽培で育てています。



メルヘン工房
【田中国芸】(安原みさと)

小矢部市北-327-2
電話/0766-69-8924 FAX/0766-69-8964
(商品のご注文はFAXをご利用ください)
開園時間/9:30~17:00 休園日/日曜・祝日
HP/http://marchenstudio.jp/

**バラが舞う、
優雅なバスタイム**



9輪のギフトボックス(小)2,700円税込
16輪のギフトボックス(大)4,320円税込
(バラの香りの入浴剤付き)

県内バラ切り花の60%以上が生産されている小矢部市の田中国芸では、水耕栽培により、一輪一輪に真心を込めて高品質のバラを栽培しています。

加工部「メルヘン工房」は、安原みさとさんを中心に、花束やバラの加工品のほか、アレンジメント教室も開催するなど幅広く活動されています。中でも、今最も人気が高いのが、お風呂用のバラの生花「バラ風呂」商品です。

道の駅「メルヘンおやべ」の足湯に、りんごやバラなどを浮かべる企画でお客さんの楽しんでいる姿を見て、頑張る女性の自分への褒美としての需要があるのではないかと考え、商品開発に取り組みました。

養鶏業が盛んな小矢部市をPRしようとして、卵のパックにバラを詰め、気軽に使える商品として販売を開始。その後、バラの高貴なイメージに合ったギフト用のニーズに応えるため、平成26年に県の農村女性起業チャレンジ事業を活用し、ギフトボックスを開発しました。それからは、女性から女性へのプレゼントとしてだけでなく、男性から女性へのサプライズプレゼントとニーズも変化しています。

現在は、市のふるさと納税の返礼品として取り扱われるなど、注目される商品となっています。使われた方からは、「花びらがしっかりしているので3〜4回使った」という声や「もったいなくて、観賞用にしたい」との声もあがっています。

安原さんは、「小矢部市や富山県に何かお返しできないかと思っていたので嬉しい。」と話しています。

自分への褒美として、贈り物として、優雅なバスタイムをプレゼントしてほしいかでしょうか？



!! 農村女性
起業チャレンジ事業
とは...

起業化をめざす農村女性に対して、農産物を活用した新たな商品の開発やサービスの開始などにチャレンジする取組を県が支援しています。



Jun Blend Kitchen
ジュンブレンドキッチン
(大坪順子)

高岡市西藤平蔵234
JA高岡農産物直売所「あぐりっちアグリピア店」内
電話/080-5853-2824
営業時間/8:30~16:30(ランチタイム10:30~14:30)
定休日/日曜、祝日、第1・3・5月曜
HP/http://junblend.blog117.fc2.com

看板メニューの「ジュンブレンド サラダプレート」は、色とりどりの旬な野菜十数種類に鶏ハムなどを合わせたボリュームたっぷりのフレッシュサラダと、高岡産小麦を使ったパンまたは、自家栽培米のいずれかから選べます。野菜は、毎朝の状態を見て選ぶこだわりもあり、毎回違う野菜を楽しめます。

オープン後は平成23年7月。それまで西洋野菜を生産するだけでしたが、店舗オーナーの募集告知を見たのがきっかけで、農家カフェにチャレンジすることを決意されたとのこと。

生産者や主婦など多くのお客さんで賑わう「Jun Blend Kitchen」(ジュンブレンドキッチン)。店主の大坪順子さん・洋介さん夫妻が営む農園「Jun Blend Farm」やお店に隣接するJA高岡の直売所の新鮮で旬な野菜を使ったランチが人気の農家カフェです。

オーブンは平成23年7月。それまで西洋野菜を生産するだけでしたが、店舗オーナーの募集告知を見たのがきっかけで、農家カフェにチャレンジすることを決意されたとのこと。



お1人様大歓迎!
朝は生産者が集まり、コーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しんでいます。

!! 6次産業化
とは...

「地域資源」を有効活用し、農林漁業者(1次産業従事者)が、自ら加工(2次産業)や販売・サービス(3次産業)など新たな事業に取り組むことで、付加価値を高め、所得増大と雇用の創出を図ること。

魅力たっぷり!

とやまの
6次産業化

地域に愛される農家カフェ



- 1 店主の大坪順子さん。「直売所の隣でこんなオシャレなランチが食べれるなんて!」という驚きの声が多いそうです。
- 2 ジュンブレンドサラダプレート(1,050円税込) 季節の野菜を使ったフレッシュサラダ、パンorライス、スープ。

店の活性化に向け、順子さんは農業者同士の連携を深めることを心掛けています。国吉りんごジュースや殿山農園ぶどうジュース、平成29年4月には、「Jun Blend Farm」の飼料用米を給与した乳牛の生乳100%ソフトクリームなど、市内の生産者が作る商品も取り扱います。また、毎朝9時頃から直売所に出荷する生産者たちが集い、情報交換や地域交流の場にもなっており、「生産者の皆さんが毎日元気に顔を出してくれることがこころで続けていく力の源になる。」と順子さんは話しています。

順子さんの今後の目標は、「これからも長くこの場所で続けていき、劇的な変化ではなく、例えば毎日のサラダの身など日々の変化を大事にしていくこと」。皆さんも、Jun Blend Kitchenの温もりにあわせてみてはいかがでしょうか。

安藤兵九郎遺徳碑見学

用水の歴史

用水路は起源が古く、江戸時代初期の小矢部川左岸一帯の農地開墾を機に偉人である安藤兵九郎氏を中心となり、1673(延宝元)年から16カ年という長い歳月をかけ、2本の用水路が完成しました。

上八ヶ新村(現在の答野島、佐加野等)を流れる用水は「佐加野用水」、下八ヶ新村(現在の守山、二上町等)を流れる用水は「下八ヶ用水」と呼ばれ、2本の用水路を併せて「下八ヶ佐加野用水」と呼ばれています。



▼安藤兵九郎遺徳碑



▼下八ヶ佐加野用水路絵図

無筋コンクリート水路で構築されました。これまで、広谷川や外古川等の幹線排水路と平面交差し排水路を堰き止めて流下していた用水は、用水と排水に分離するため、横断サイフォン構造で整備されました。また、3kmに渡り、並行流下していた下八ヶ用水と佐加野用水は、下八ヶ用水に併合されました。

この県営事業は施工されてから30年以上経過し、施設の老朽化に加え都市化や営農体系の変化により度重なる溢水被害を被る深刻な状況に陥ったことから、平成3年より県営かんがい排水事業、平成11年には農業用水再編対策事業が開始され、平成20年に施工区間11.6km、総事業費約37億円を投じてようやく完成しました。

対策協議会を設立

県営かんがい排水事業に農業用水再編対策事業を導入するにあたり、地域用水機能を維持保全するための啓発活動や機能強化を図り、農業水利資源の維持・保全のための支援を行うことを目的に、平成10年に高岡市下八ヶ佐加野地域用水対策協議会が設立されました。対策協議会が行う活動の中でも、平成11年から毎年取り組んでいる用水見学会は用水の役割と地域用水の大切さを知ってもらう重要な活動です。平成26年から「美の里保全活動支援事業」も活用しています。

用水見学会

用水見学会では、地域の小学校3校の4年生を対象として、用水路の主要施設や地域用水機能施設、用水の歴史施設を半日かけてまわります。今年度は6月に2回開催されました。



▲小矢部川下流左岸地域航空写真

ふるさとを創る
土地改良施設を水辺から
眺めたお話

カモ親子の 農村日記

万葉のゆたかな水の里

(高岡市下八ヶ佐加野用水)

小矢部川下流左岸地域を潤す「下八ヶ佐加野用水」

下八ヶ佐加野用水は、富山県西部の高岡市に位置し庄川・小矢部川によって形成された平坦な扇状地からなる小矢部川下流左岸の農地面積約420haをかかっている、全長約14kmの幹線用水路です。この水路は、一級河川小矢部川に設置された二日市頭首工より取水し、地域の幹線排水路等をサイフォンにて横断しながら導水し、下流部では山地排水を受けながら小矢部川に排水しています。用水は年間通水され、防火用水や消融雪水などの生活用水にも活用されるなど、地域の重要な財産となっています。

下八ヶ佐加野用水の整備

昭和28年から40年にかけて県営小矢部川下流左岸排水改良事業により、水路は、張りブロック水路や

下八ヶ佐加野用水受益地



- ① 三日市頭首工・取水ゲート
- ② 十日市取水門
- ③ 下八ヶ佐加野分水門
- ④ 高辻サイフォン
- ⑤ 答野島サイフォン
- ⑥ 頭川川サイフォン
- ⑦ 浄覚寺取水門



▲佐加野用水路



▲三日市頭首工河川左岸より

土地改良用語辞典

頭首工

河川から必要な農業用水を用水路に引き入れるための施設

サイフォン

用水が河川と交差する場所で、河川の下に用水を横断させるための構造物

用水見学会

- 1 三日市頭首工見学
- 2 答野島サイフォン模型
- 3 消防団放水訓練



美の里保全活動支援事業とは…

地域の土地改良施設等を拠点に行う自然環境や農村景観の保全・再生活動、体験学習等の活動を県が支援するもの。



若い力で 元気な むらづくり

YOUNG POWER

平成28年8月9日(火)、富山県民会館ホールで「第10回『元気とやま』むらづくり推進大会」を開催しました。「農業・農村・若者・移住」をキーワードに、各地域で活躍されている方々をパネリストとして迎え「若い力で元気なむらづくり」と題してパネルディスカッションを行いました。
大会には約1,000名の方が参加し、コーディネータとパネリストの意見に深い関心を持ちながら、パネルディスカッションを見学しました。



コーディネータ
九里 徳泰氏
相模女子大学教授
〈専門〉
経営学、環境科学、統計学、
持続可能性研究、観光地域活性化

パネリスト

| | | | |
|---|--|--|---------------------------------------|
| <p>中川 雅貴氏 (農)国吉活性化センター職員</p> | <p>寺田 晴美氏 (株)Stay gold てらだファーム代表取締役</p> | <p>多田 朋孔氏 NPO法人 十日町市地域おこし 実行委員会事務局長</p> | <p>河上 めぐみ氏 (有)土遊野代表取締役</p> |
|---|--|--|---------------------------------------|

九里氏
まずは自己紹介を含め、活動紹介をお願いします。

河上氏
東京の大学卒業後、自分が育った地域の農地を残したい思いで就農しました。
富山市大沢野町の中山間地域で平飼い養鶏と有機米を中心に、「有畜複合循環型農業」を実践しています。

多田氏
平成22年、夫婦で新潟県十日町市に移住(大阪府出身)しました。
地域の団体で米や加工品の直販、都会との交流事業、移住促進、農村での起業支援、地域おこし協力隊の受入体制づくりのサポートを行っています。

寺田氏
農業が好きではなかったが、野菜ソムリ工の資格を取得後楽しくなってきました。
地域の女性農業者も巻き込んで『百笑一喜』を結成し、里芋を使用した里芋コロツケ「さところ」の開発・販売を行っています。

中川氏
大学卒業後(群馬県出身)、高岡市国吉地区で緑のふるさと協力隊隊員として活動を行っています。
大規模農業を志し、1年の任期を終えて農事組合法人国吉活性化センターに就職し、地域農業を守っています。



▲平飼い養鶏
▲東京からの稲刈り体験



▲稲刈り体験
▲雪かき道場



▲全国コロツケフェスティバル
▲里芋コロツケ「さところ」



▲中川雅貴氏
▲イノシシ柵の設置

最後に今後の活動予定についてお願いします。

河上氏
今後必要なのは、「新しい人」。それには体験してもらうことが必要であり、実際に体験できるファームステイを通じて、新しい人(就農する人、滞在する人)を発掘していきたいです。

多田氏
これからも研修会を実施し、必要な時に必要なことを学べる場を提供していきたいです。
地域の人、地域おこし協力隊、行政の関係強化をしていきたいです。

寺田氏
地域の皆様の巻き込んだ農業経営を行っていききたい。地域の高齢者や育休中のお母さんたちを巻き込んで、地域で盛り上げられる地域密着型農業を行っていききたいです。

中川氏
3ステップの地域活性化取組を深化(電気柵の延長、ハンター育成、イノシシ肉の普及)させていきたいです。

九里氏
各パネリストは、具体的な方法で目標に向かっていくプランを持っています。
農業が農業だけでおさまるわけではなく、さらに商業、観光などの分野が関連してくる余地が見いだせませす。

九里氏
・農業と関係ない、興味がない等の状況から農業を始めた方もいるが、皆さんは実力派の農業実践者です。
・皆さんの活動は「仲間」「好き」「楽しい」がキーワードになっています。

続いて、むらづくり活動の活性化に関する意見をお願いします。

河上氏
・体験したい、見たい、滞在したい、農業をしたいなど様々な体験ができる受け入れ体制を作っています。
・「食への心」と「生きる心」であることとを伝える。農地はそんな現場であることを見失わず人を巻き込んでいきたいです。

多田氏
・地域づくりでは、他所の例を導入しても(いきなり何かしようとしても)うまくいかない。地域の人と仲良くなる(ことが第一)だと考えています。



▲子どもと命に触れる



▲地域おこし協力隊関係者向け研修会

寺田氏
・一人ひとりが、農地、むら、地域を守る一員だと意識することが大切。農業がきらいだったが、地域の一員になったことで農業に向かう姿勢は変わってきました。

中川氏
・イノシシを地域の共通の「敵」として利用することで、イノシシ対策を通じてむら盛り上げていきたいです。
・「守る(電気柵の維持管理)」、「攻める(若手のハンター育成)」、「活用する(イノシシ肉の利用)」の3ステップで地域活性化を図っています。

九里氏
・皆、段階を踏んだプロセスを持っている。試行錯誤しながら編み出されたものです。
・どんなプロセスを踏んでいくか、自分一人で抱え込まず、地域の中で方向性を見出し「仲間」とともに地域活性化の活動を実施しています。



▲飲食店経営者との連携



▲イノシシ肉



▲パネルディスカッションの様子



『元気とやま』むらづくり推進大会とは？
農業・農村には「県土の保全」「自然環境の保全」等の機能があることを知ってもらい、農業・農村を元気にする活動等を紹介する大会。

捕獲活動の推進



電気柵などで侵入を防ぐことと並行して、増えすぎたイノシシを捕獲していくことも重要な対策です。捕獲檻の導入、捕獲・追払い活動への賃金、捕獲個体の処理などに、国の交付金を活用できます。近年ではICTを活用した捕獲檻(遠隔監視、扉の遠隔操作が可能)も導入されています。

捕獲活動の推進により、年々捕獲頭数が増加しています。

イノシシの捕獲頭数の推移



▲捕獲したイノシシ

ジビエ利活用の推進



イノシシの捕獲頭数は年々増加しており、そのうち約3割は自家消費されていますが、それ以外の多くが埋設・焼却処分されています。自然の恵みを有効に活用するため、また、捕獲の促進につなげるため、県ではジビエ※の利活用を推進しています。

イベント等でのPR、ジビエ料理の普及、低価格商品の開発に取り組むほか、獣肉処理施設の整備にも支援しています。



▲メデルケのイノシシカレー



◀ジビエハンバーガー



▲ソーセージ(真空)



▼しししゃぶ

生息環境の整備

侵入防止柵の設置、捕獲活動に加えて、緩衝帯の整備、雑木林の刈払い、水田や野菜畑での収穫残渣の除去など、イノシシの隠れ場所やえさ場の除去も重要な対策であり、並行して進めています。

継続的な対策の推進

イノシシなどの鳥獣被害防止対策は、一朝一夕には効果は出ません。これらの対策を地域ぐるみで継続的に行っていくことが重要です。引き続き、関係者が一体となって取組みを推進していきます。

※ジビエとは:「狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉」を意味するフランス語

県ホームページでジビエ料理を提供するお店やジビエ料理のレシピ等を紹介しています。 [とやまジビエ ガイドブック](#)

イノシシ被害防止に向けて



富山県では鳥獣による農作物被害が深刻な問題となっています。特に、イノシシによる水稲への被害が年々増加しています。

このため県下では、侵入防止柵の設置、捕獲の推進、生息環境の整備、ジビエの利活用の推進に取り組み、被害の削減に努めています。

県では、平成29年度に、被害実態や防止柵整備状況を地理的に把握し、被害削減目標や防止柵・捕獲檻の計画的な整備などを盛り込んだ、「イノシシ被害防止対策方針」を策定するとともに、地域実践リーダーの育成を進めます。

イノシシによる農作物の被害額の推移



▲荒らされた農作物

侵入防止柵の設置



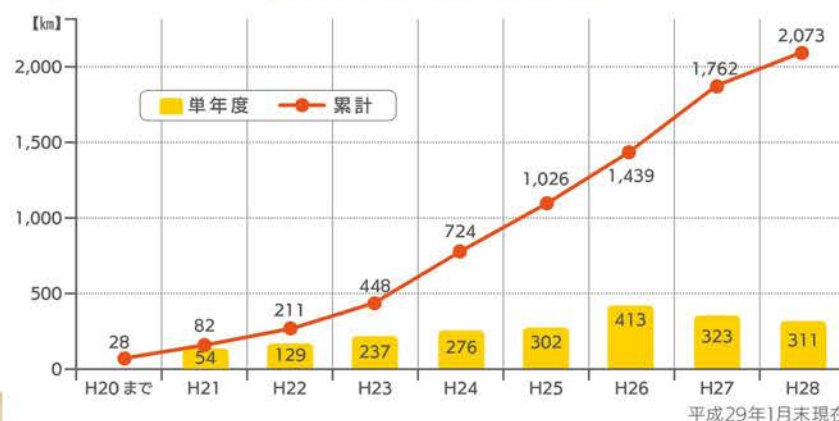
県内では、水田等への侵入防止対策として、導入コストが低く効果の高い電気柵が多く利用されています。導入にあたっては、被害が出ており、費用対効果の条件を満たす地区は国の交付金を活用できます。被害が出ていないものの足跡があるなど被害の恐れがある場合は、県の事業を活用でき、農業共済の上乗せ助成、地区によっては市町村の助成がある場合があります。

また、高齢化等により、電気柵の設置・管理・撤去などが困難になってきている地区は、耐雪型侵入防止柵を整備することもできます。



▲侵入防止柵の設置

県内の電気柵の設置状況



第6回「とやまの農山村写真展」

受賞作品

「とやまの農山村写真展」は、富山県の豊かな農山村風景を後世に守り伝えることを目的に開催しています。

作品をご覧いただいた方々が富山県の魅力を再発見する、良いきっかけになるものと思っています。応募総数202作品(一般149作品・ジュニア53作品)から、富山県知事賞(最優秀賞、優秀賞)、富山県土地改良事業団体連合会長賞(棚田賞)及びとやま棚田ネットワーク会長賞(特別賞)を表彰しましたので、紹介します。

最優秀賞

Best award



「円筒分水槽」 今藤 正昭 (高岡市)



「今日から稲刈り」 川尻 ちひろ (富山市)

優秀賞

一般部門



「棚田の学校」 山田 正昭 (富山市)



「初めての田んぼ」 若林 繁 (富山市)

ジュニア部門

「グリーンカーペットを歩く」 青柳 愛莉 (射水市)



- 棚田賞
- 一般部門 横田 誠 杉山 邦雄
 - ジュニア部門 堀田 美里



- 特別賞
- 一般部門 吉沢 道子 沖 保治 藤丸 正義 上野 貴志 梶原 隆 大田 富士弥 濱田 信介 網谷 昭
 - ジュニア部門 三浦 莉那 浜田 沙也香 中道 咲麗 宮井 優花 向柴 天斗



受賞作品は「とやま棚田ネットワーク」のホームページでご覧いただけます。とやま棚田ネットワーク [検索](#)

田舎暮らしや移住・定住に関心のある方、農林漁業を体験してみたい方 富山の農山村で自然と歴史、農業と食文化を学び合い、体験しませんか？

2017 とやま帰農塾

ご家族・ご友人同士で、お誘い合わせの上ご参加ください！

塾生募集！

参加費

2泊3日 15,000円

1泊2日 8,600円

- 高岡市 国吉塾** 9月22~24日 酪農体験
- 氷見市 灘浦塾** 8月18~20日 魚さばき体験
- 黒部市 黒部塾** 7月29~30日 巻江(昔の用水路)整備
- 朝日町 笹川塾** 6月16~18日 里山の草刈り
- 立山町 立山塾** 10月20~22日 陶芸体験
- 富山市 やまだ村塾** 2月10~12日 雪中歩行
- 富山市 ながたけ塾** 10月7~9日 きのこ狩り
- 南砺市 五箇山なまこ塾** 8月23~25日 なまこ畑の耕起
- 南砺市 井波塾** 10月27~29日 里芋の収穫作業
- 砺波市 砺波塾** 6月10~12日 散居村(アスマダチ)見学
- 富山県 富山塾** 富山駅、富山空港、立山、大長谷、五箇山、やまだ村、新高岡駅、黒部、黒部宇奈月温泉駅、富山湾、笹川、灘浦、国吉

平成29年度の各塾のスケジュールは、HPをご覧ください。

お申込み・お問い合わせ

グリーンツーリズムとやま
TEL/076-482-3161 FAX/076-482-3635
[E-mail] info@gt-toyama.net

富山県農村振興課
TEL/076-444-9011

とやま帰農塾 [検索](#)

氷見市郊外の立山連峰が一望できる小高い丘に農園レストランとワイナリーSAYS FARM(セイズファーム)があります。表紙の3人の方は、農園担当の方で向かって右の方から、山崎勇人(やまざきはやと)さん、越前日佐嗣(えちぜんひさし)さん、長谷川有紀(はせがわゆき)さんです。山崎さんは、農園長を務めています。

お話を伺ったのは、取締役SAYS FARMマネジャーの飯田健児(いひだけんじ)さんです。セイズファームは、ワイナリー、レストラン、カフェ、ギャラリー、ショップ、ゲストハウスを備えた「農園」です。平成19年7月、江戸時代から続く魚問屋「釣屋」を母体に設立されました。経営のコンセプトは「氷見でブドウを育て、氷見で醸造する氷見ワインを誕生させる。」「氷見の魚介、地元産の食材とコラボレーションした飲食事業を展開する。」「海と山の恵みを最大限活かした氷見の魅力を全国へ発信する。」「景観と里山の自然環境をベースにした観光・文化事業を展開する。」「氷見発のニューブランドを創造する。」です。

ワインは、100%自社原料のブドウで生産しています。栽培方法は垣根式を採用しています。垣根式は1本あたり75cmしか枝を伸ばさず、少ない量のブドウしか採れないのですが、その分凝縮感があるワインに最適なブドウが栽培できるそうです。日本の風土では棚が一般的なのですが、セイズファームでは、標高の高い南向きの斜面という好立地の為、この栽培方法を可能としています。主に栽培している品種は「シャルドネ」「ソービニオンブラン」「カベルネソービニオン」「メルロー」の4品種です。

レストラン棟はワイン畑を望む林の中にあり、地産地消を信条にファームで育てた野菜や果物、そして氷見の魚介を中心とした食材で料理を提供されています。また、地元作家の器などを中心に展示しているギャラリーとワイン等を販売するショップ、宿泊施設を併設しています。「また来たいね」「いつ来てもいいね」と言ってもらえる農園をめざして、農園、ワイナリー、カフェ等トータルとしての「SAYS FARM」の価値を高めていきたいと話していました。



飯田健児さん

セイズファーム
SAYS FARM
OPEN:11:00~18:00

ランチ・ディナーはご予約が必要です。
定休日:無休
(※年末年始、冬季休業2月除く)

〒935-0061 富山県氷見市余川字北山238
TEL.0766-72-8288/FAX.0766-72-8287
HP:<http://saysfarm.com> mail:info@saysfarm.com
●オンラインショップでワイン販売しています。

Information



とやま地産地消顕彰のご紹介

富山県では、県民の皆さんが積極的に地産地消に取り組む気運の高揚を図ることを目的に、地産地消の優良な取組みを表彰しています。

平成28年度

とやま地産地消
優良活動表彰

地域と連携・協力して地産地消に取り組み、優良活動と認められた企業・団体を「優良活動賞」として表彰しています。



農事組合法人 頼成宮農組合/砺波市

平成28年度

とやま地産地消 メニューコンテスト

学校給食・社員食堂、外食・弁当等において、生産者との交流促進等の取組みを伴った地場産農林水産物を食材として活用したメニューを募集し、優れたものを表彰しています。



農家レストラン
大門株式会社

大門素麺をはじめ、「ゆべし」「よごし」「具入り丸揚げ」「根菜いとこ煮」など、砺波平野での地産地消の健康的な郷土料理。



農事組合法人
八尾農林産物加工組合/富山市



愛彩グループ/高岡市

優秀賞

滑川市学校給食共同調理場

学校農園や地元の生産者が作った米や野菜、果物、海洋資源を使った地元の味覚が味わえるメニュー。

詳しくは、「越中とやま食の王国」ホームページ (<http://shoku-toyama.jp>) をご覧ください。

日本誌に関するご要望、ご意見等をお寄せください。住所、氏名、年齢、職業のご記入をお忘れなく。個人情報については、内容確認以外に使用いたしません。日本誌の内容が富山県ホームページでもご覧になれます。<http://www.pref.toyama.jp/>

第38号 平成29年3月

この冊子は、富山県農村環境創造基金ならびに棚田地域水と土保全基金で発行されています。

発行

富山県 富山県農林水産部農村振興課

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
TEL 076-444-3380 FAX 076-444-4427
富山県農村環境創造基金 <http://www.pref.toyama.jp/sections/1605/noukan/index.html>
とやま棚田ネットワーク <http://www.nn-toyama.jp/tanada/tenada.htm>

編集



とみどろネット 水土里ネット富山

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL 076-424-3300(代) FAX 076-424-3332
<http://www.tomidoren.jp>

この冊子は再生紙を使用しています。